

# 事業概要シート

事務事業コード	事務事業名称	事業区分	所属コード	担当課
402040002	交通安全啓発活動	実施計画	5200	土木課

事業開始年度	昭和53年度
--------	--------

## ◆事業の性質分類

○	①ソフト関係事務事業(市民サービス)	④施設等の維持管理的な事務事業
	②整備関係事務事業	⑤行政の内部管理事務事業
	③施設等の建設事務事業	⑥経常的な事務事業

【注】公の施設の維持管理的な事業で指定管理者等の導入可能性があるものは①、④の両方が該当するため両方に○印を付ける。

## ◆事業の背景

市民ニーズ・地域課題	関係法令、関係計画等
<p>近年、自転車利用者のルール遵守意識の低下や、マナーの悪化など、新たな問題も生じてきている中、本市では、他市と比較し、全交通事故に占める自転車事故の割合が高くなっています。また、高齢者人口の増加に伴い、高齢者の交通事故死者の増加が顕著に表れてきています。</p> <p>市民が安心して日々の生活を送ることができるようにするためには、交通環境の改善と、安全性を向上させることが求められます。</p>	<p>第8次長岡京市交通安全計画 第3次総合計画第2期基本計画 基本1-政策5-施策2</p>

## ◆事業の目的

【事業の対象】・利益を受ける人 ・最終的に影響を及ぼすことを予定している人、もの 等	【事業の目指す成果】・左記の対象がどのような状態になることを目指していますか ・成果として具体的に何か 等
<p>市民79,654人(平成21年6月現在)を対象</p>	<p>すべての市民が安心して日々の生活を送ることができるように、一人ひとりが交通社会における責務を自覚し、「交通安全意識を持って行動する」社会気運を高めるとともに、行政、関係機関・団体及び市民が一体となって地域の交通情勢等に対応した交通安全対策を計画的かつ積極的に推進します。</p> <p>特に交通事故に関しては、事故そのものの減少を目指しつつ、事故死者数を限りなくゼロに近づけることを究極の目標として、重点的な取り組みを行っていきます。</p>

◆事業費の推移 (単位:円)			H19実績	H20実績	H21見込み
収入	使用料・手数料				
	国支出金(補助率 )				
	府支出金(補助率 )				
	その他( )		0	0	0
	合計		0	0	0
支出	人件費(概算)	正規職員	従事人員(人) 0.76	0.76	0.56
		人件費	6,096,000	6,056,000	4,480,000
	嘱託・再任用職員	従事人員(人)	0.37	0.37	0.37
		人件費	859,740	962,000	962,000
	事業費(予算・決算)		1,841,048	1,366,567	2,081,000
合計		8,796,788	8,384,567	7,523,000	
収支	一般財源充当額		8,796,788	8,384,567	7,523,000
	対象者あたり一般財源充当額		(79,654人が分母) 110/人	(79,654人が分母) 105/人	(79,654人が分母) 94/人

主な事業費の詳細 (H21見込み)	<p>交通安全フェア会場設営委託料 1,236千円 乙訓地域交通委員負担金 164千円 会場内整理業務委託料 36千円</p>
-------------------	---

◆事業の内容			
事業の手法		事業の内容	
	直営	① 交通安全フェア(年一回開催) ・20年度内容…市民や企業ボランティアによる「パンダちゃんクラブコーナー」「プラバンコーナー」「ドナルド君と交通安全教室」「はっぴいバス展示コーナー」や幼児・児童に人気のある「おもしろ自転車コーナー」「ふあふあコーナー」等、市立図書館の「絵本と折り紙のコーナー」等、合計13コーナーにおいて運動啓発チラシ、反射材等啓発物を配布した。また、全体的には、半日開催にしたことにより、前コーナー共通して集中した行事の取り組みが行えた。 ・累積実施回数：31回 ・平均参加人数：2,000人 ・会場設営委託先：「さんきゅう一(株)」(平成20年度実績) ② 乙訓地域交通安全活動推進委員協議会負担金－164,000円	
	全部委託		
○	一部委託		
	指定管理		
	その他		
◆事業の類似			
市における類似事業について		なし	近隣市町における類似事業について 乙訓地域交通委員負担金については、向日市、大山崎町で同事業を実施している。
◆過去の経過			
これまでの課題		左記の課題への、これまでの対応	
<ul style="list-style-type: none"> <li>交通安全フェアは、市民が主体的に交通安全意識を向上させるため、毎年を開催し、参加率を上げるため子ども中心のコーナーを企画し、親子で参加体験できる催しを行うことにより啓発してきた。</li> <li>イベントによる周知は、一定達成できたため、参加していない年代層の参加率を向上させることと、子ども中心から、高齢者など他の年代層が参加できる事業展開についても検討が必要である。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>交通安全フェアは、20年度半日開催にしたことにより、全コーナー共通して集中した行事の取り組みができた。</li> <li>それにより、職員の人件費も削減できた。</li> <li>また、市職員だけでは不足する担い手として、市民や企業ボランティアの参加呼びかけや、他団体にコーナーを任せするなど、市主体から市民主体へ変化させる内容にしてきた。</li> </ul>	
◆現状の分析と課題			
①【必要性】・現在も市民に必要とされる事業か ・環境変化により事業目的は薄れてないか ・廃止した場合の影響は何か		②【市関与の妥当性】・市が行うべき事業か ・類似事業を行う他団体はないか ・市が行わない場合の影響は何か	
<ul style="list-style-type: none"> <li>市民に対して広く交通安全啓発するには、これまでの取り組みを継続することが基本となるが、長年同じ事業を繰り返すことにより、マンネリ化しているため、さらに、多くの市民の興味を引く取り組みを展開することが望ましい。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>交通安全フェア開催については、他の団体等でも実施は可能。</li> <li>ただし、主体的に実施する意思がある団体は、見当たらない。</li> </ul>	
③【手法の適正】・現在の手法は最も適正なものであるか ・手法を変更する可能性はないか ・変更する場合の課題は何か		④【その他の課題】・現在の内容で目的は果たせるか ・経費や時間等に無駄はないか 等	
<ul style="list-style-type: none"> <li>交通安全啓発は、市で取り組まなければならないことであり、市が関与することは適正であるが、「交通安全フェア」「乙訓地域交通安全活動推進委員協議会負担金」については、見直す必要がある。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>乙訓地域交通委員負担金は、次年度の事業内容が決定していない中で、負担金を支出することについて、市民の納得が得られるかどうか。</li> </ul>	
◆今後の方向性と課題への対応			
方向性		【方向性の理由と想定される課題への対応】	
	継続	<ul style="list-style-type: none"> <li>交通安全フェアは、長年、子ども中心に催しを開催してきたことにより、子どもの参加率は高いが、交通事故の増加している高齢者や自転車利用者への参加呼び掛けができる事業展開を進めるため、見直す必要がある。</li> <li>現在、主体的に実施する意思のある団体等が見当たらないため、市民に定着している本事業内容を他の事業に引き継ぐかどうか検討が必要。</li> </ul>	
	拡大		
○	縮小		
	統合		
	外部委託		
	廃止		
	その他		
所属長コメント(事業の展望)			
事業の方向性について、広い視野から、抜本的なアドバイスをいただきたい。			